

食と健康からみた生物多様性保全と 地域循環共生圏の構築



United Nations Decade on Biodiversity



2019（令和元）年5月11日
国際生物多様性の日シンポジウム
環境省大臣官房審議官

鳥居 敏男

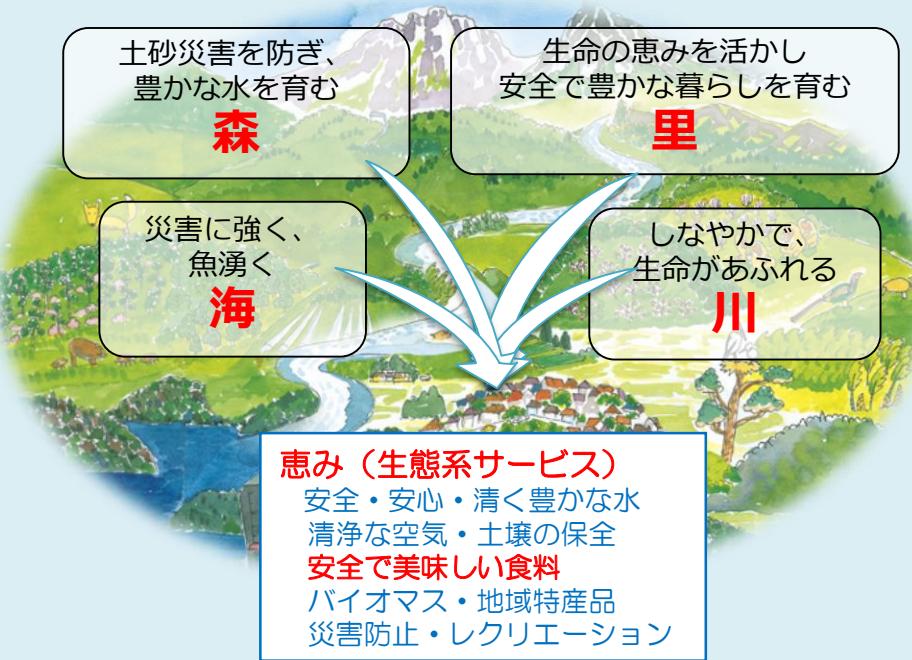
【政策決定者向け要約】

◆社会変容(transformative change)を促進する緊急かつ協調的な努力が行われることで、自然を保全、再生、持続的に利用しながらも同時に国際的な社会目標を達成できる。

- 食料、水、エネルギー、健康、良好な生活の質の実現、気候変動や自然保護の課題への対策等の国際的な社会目標は、既存の政策手段の迅速かつ改善された展開、並びに個々及び団体の活動が効果的に求めるイニシアティブにより、社会の変容を伴う道のりをたどれば、達成は可能である。
- ...

「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト

私たちの暮らしを支える森里川海



人口減少・高齢化・過疎化・気候変動・過去の過剰開発・資源の海外依存など、様々な要因により、我が国の自然環境は荒廃し、国民の暮らしにも影響。



守る、支える、活用する

自然の恵みを引き出し、
経済性を伴なってまわる仕組みづくりと
それを支えるライフスタイルへの変革

プロジェクトの目標

○森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出します。

森里川海が本来持つ力を再生し、恵み（清浄な空気、豊かな水、食料・資材等の恵みを供給する力や自然災害へのしなやかな対応力等）を引き出すことで、森里川海とその恵みが循環する社会をつくります。

○一人一人が、森里川海の恵みを支える社会をつくります。

私たちの暮らしは森里川海の恵みに支えられているだけでなく、日々の暮らし方（消費行動や休暇の過ごし方など）を変えることによって、私たちが森里川海を支えることができます。一人一人がそれを意識して暮らす、いわば人と自然、地方と都市が共生する社会への変革を図ります。



「森里川海大好き」読本作成・普及

ライフスタイルの転換を促すイベントの開催

実証地域の取組状況

宮城県南三陸町

– 国際認証を活かした商品開発による
経済的仕組みづくり –

- FSC南三陸杉及び**ASC南三陸戸倉っこかき**を活用した戦略的なブランディング開発
- 国際認証の認知を拡大し、市場からのニーズを増大させるマーケティング



徳島県吉野川流域

– コウノトリをシンボルにした
環境と経済の統合的向上 –

- 特別有機栽培やエコファーマー認定農家のレンコン等を「コウノトリブランド」として認定・販売し、売上的一部分から環境保全活動資金を獲得



石川県珠洲市

– 「おらっちゃんの宝」による里山里海の持続的保全 –

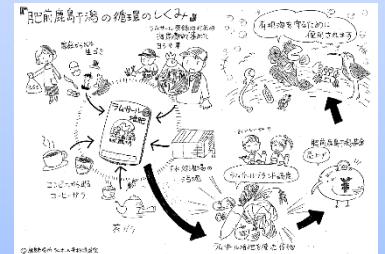
- 市内で小さなコミュニティ・ビジネスを形成することで、地域経済の好循環と自然資源を維持
- **生物多様性保全型農業によるお米のブランド化**



佐賀県鹿島市

– 堆肥化の取組と連携して地域資源循環システムを構築 –

- 肥前鹿島干潟の保全・再生
- 廃棄物堆肥化の取組と連携した資源循環システムの構築
- 上記堆肥を活用した農産物への「ラムサールブランド」付与



資源循環システムのイメージ

国際的な「生物多様性と健康」への注目

生物多様性と健康のつながり

水の供給と衛生

農作物の生産／食物と栄養

人の居住空間(清浄な空気、ヒートアイランド現象の緩和、微生物等)

感染症

メンタルヘルス(自然とのふれあい)

医学(伝統医学、生物医学上の発見)

防災・減災 等

- ◆ 生物多様性条約では、COP13(2016)から、「生物多様性と健康」が議題に。
 - 各締約国にも、健康分野との連携を促している。
 - 健康なライフスタイル、生産・消費パターン、行動の変化が求められている。

- ◆ 日本でも、自然の恵みを健康づくりに役立ててきた。
 - 森林浴
 - 湯治
- ◆ オフィス緑化や自然環境でのリモートワークなど、新たな流れも。

ONSEN・ガストロノミーツーリズム

訪日外国人が次回日本でしたいこと
(複数回答・選択率40%以上を抜粋)

- ・**日本食**を食べること 58.0%
- ・**自然・景勝地観光** 45.5%
- ・ショッピング 45.2%
- ・**温泉入浴** 42.1%

観光庁「訪日外国人消費動向調査」
平成28年版より

ONSEN・ガストロノミーツー
リズム推進機構資料

地域資源を活
かしたウォー
キング

※ハードや2次交通が不要

温泉地を
中心にし
た地域の
活性化

地域の食※の
活性化

※世界的なローカルシフト
(地方回帰) ブームを掴む

温泉地の知
名度の向上

※食＝飲食店、酒蔵など

温泉地の
宿泊人数
を増加



地域循環共生圏（日本発の脱炭素化・SDGs構想）

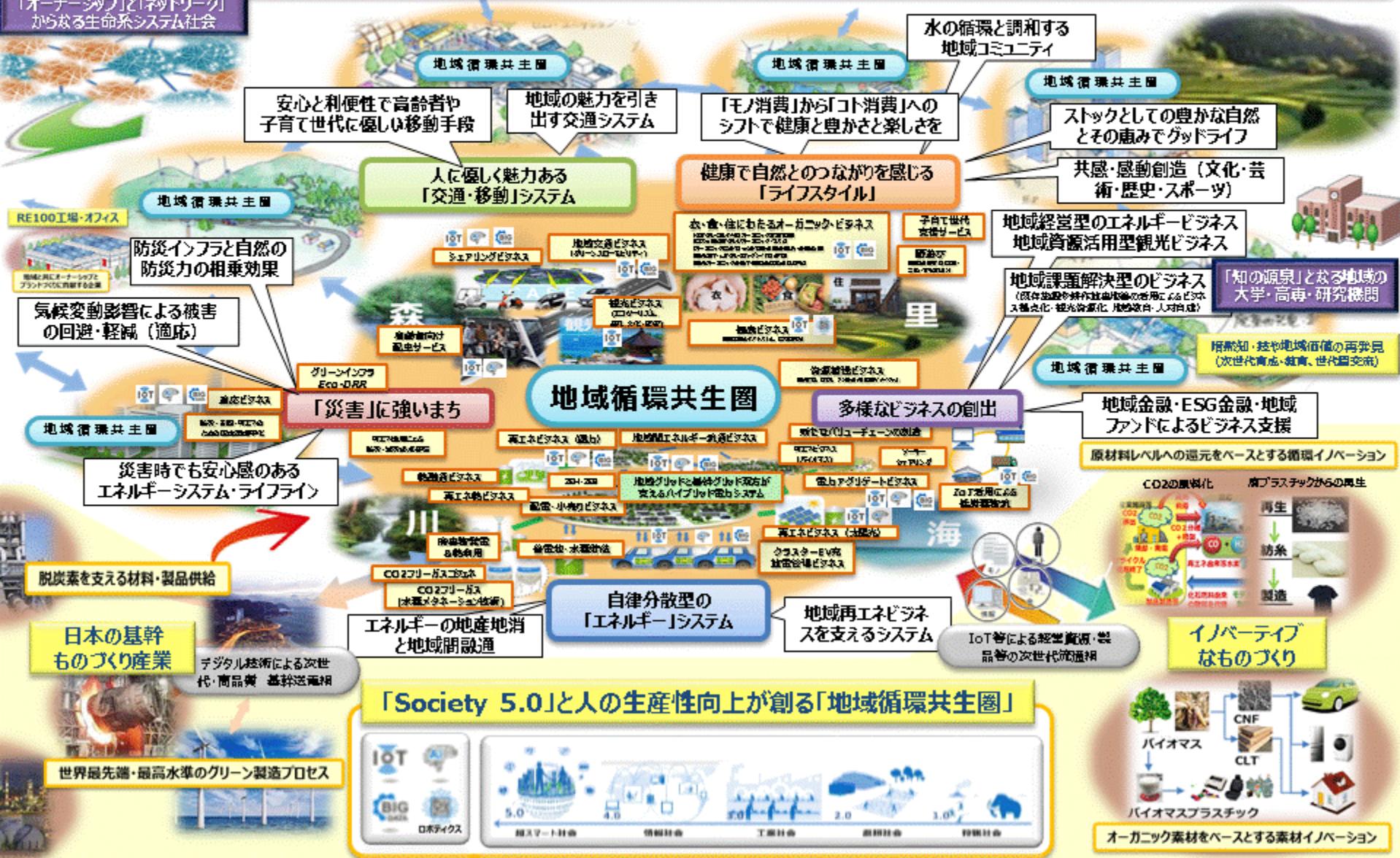
— サイバー空間とフィジカル空間の融合により、地域から人と自然のポテンシャルを引き出す生命系システム —

「自立分散」×「相互連携」×「循環・共生」= 活力あふれる「地域循環共生圏」⇒「脱炭素化・SDGsの実現、そして世界へ」
[オーナーシップ] [ネットワーキング] [サステナブル] [人間の安全保障、次世代・女性のエンパワーメントを基盤に]

→ 新たな価値とビジネスで成長を牽引する地域の存立基盤

人々が健康で活き活きと暮らし幸せを実感することで、地域が自立し誇りを持ちながらも、他の地域とも有機的につながることにより、國土の隅々まで豊かさが行きわたる。

「オーナーシップ」と「ネットワーク」 からなる生命系システム社会



「地域循環共生圏」における食と健康

